

国際復興フォーラム 2014(International Recovery Forum2014) ～災害復興における官民連携～ に参加し、発表を行いました(2014/1/21)

テーマ：復旧・復興、国際防災協力

場所：ポートピアホテル（兵庫県神戸市）

1月21日(火)神戸にて、国際復興支援プラットフォーム(International Recovery Platform, IRP)主催の「国際復興フォーラム 2014 (International Recovery Forum2014)」が、災害復興における官民連携をテーマとして開催され、当研究所からは丸谷浩明教授（人間・社会対応研究部門）、小野裕一教授、泉貴子特任准教授（情報管理・社会連携部門）が出席し、丸谷教授が「日本の官民の事業継続マネジメント（BCM）」について報告し、パネルディスカッション「災害復興における民の力、官の役割」のパネリストも勤めました。

本フォーラムは、2015年に仙台で開催される第3回国連防災世界会議で決定される兵庫行動枠組みの後継枠組を意識し、後継枠組に盛り込まれると考えられる事項の一つである官民連携による災害対応について議論が行われました。

冒頭、内閣府及び井戸敏三兵庫県知事等の挨拶から始まり、基調講演として、経団連防災に関する委員会共同委員長の橋本孝之日本IBM会長、米国FEMAのElizabeth Zimmerman氏、フィリピン国防相のRomeo F. Fajardo氏の3名が講演、それに続き、国際経営者機関（IOE）、日本政策投資銀行、南アジア地域協力連合（SAARC）、メキシコ市民防衛システム社会科学委員会、世界銀行、東北大学、政府間開発機構（IGAD）、国際協力機構（JICA）から8件の報告が行われ、最後にパネルディスカッションが行われました。

当日は、21カ国、34機関、155名が参加し、幅広い機関からの発表、報告に基づき意見交換が行われ、会場からの質疑応答も多く、災害復興における官民連携の重要性が認識されました。



パネルディスカッションの様子

文責：丸谷浩明（人間・社会対応研究部門）